

- 問1 北海道のオホーツク海沿岸で見られる流氷と、その地域への影響について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 （2018年 山形県公立入試 類似）
- 暖流の影響で海水が蒸発して氷になったもので、夏の冷害を引き起こす原因となっている。
 - シベリア沿岸で生まれた氷が南下してくるもので、冬の重要な観光資源として活用されている。
 - 日本海の雪が海に流れ出て固まったもので、主に水田の灌漑用水として利用されている。
 - 太平洋側から北上してくる大規模な氷山で、冬の間の船舶の往來をすべて止めている。
- 問2 北海道の根釧台地にある別海町と、内陸の盆地に位置する旭川市の夏の気候を比較した際、別海町に見られる特徴と、それに関連した土地利用の様子を述べた文として正しいものはどれですか。 （2016年 大分県公立入試 類似）
- 旭川市に比べて冬の積雪量が圧倒的に多いため、冬の間の産業として酪農ではなく林業が中心となっている。
 - 旭川市よりも夏の気温が高く、日照時間が長いため、広大な土地を利用した稲作や畑作が盛んに行われている。
 - 旭川市に比べて降水量が極端に少なく、夏は干ばつに見舞われやすいため、大規模なダムと灌漑施設を利用した酪農が行われている。
 - 旭川市に比べて夏の気温が明らかに低く、沿岸部から広がる濃霧の影響を受けやすいため、多くの土地が牧草地として利用されている。
- 問3 農業従事者数と耕地面積の関係を示した資料において、他地域が「労働力が多く、耕地面積が狭い」傾向にあるのに対し、北海道は「労働力が少なく、耕地面積が極めて広い」という独自の特徴が見られます。このような北海道の農業の特色を端的に説明したものととして、正しいものはどれですか。 （2024年 福岡県公立入試 類似）
- バイオテクノロジーを駆使した都市近郊農業
 - 労働力集約型による小規模経営
 - 伝統的な手作業を中心とした多角経営
 - 大型の機械を活用した大規模経営
- 問4 2018年の統計において、畑作の農家一戸あたりの耕地面積を比較すると、全国平均が5万平方メートル未満であるのに対し、北海道は約20万から25万平方メートルという圧倒的に高い数値を示しています。このような広大な土地で効率よく耕作を行うために、北海道の農業で一般的に取り入れられている手法として最も適切なものはどれですか。 （2021年 岩手県公立入試 類似）
- 土地を細かく区画分けし、多種類の作物を量ずつ組み合わせて栽培する手法
 - 豊富な労働力を一箇所に集中させ、手作業によるきめ細かな管理を行う手法
 - 大型の機械を導入し、少ない人数でも広範囲の作業を短時間でこなす手法
 - ビニールハウスなどの施設を大規模に建設し、一年中同じ作物を育てる温室栽培の手法
- 問5 北海道における人口分布の変化について、1950年から2010年までの統計的な傾向を説明した文として正しいものはどれですか。なお、この期間において北海道全体の人口は約430万人から約551万人へ、札幌市の人口は約62万人（1960年）から約191万人へと推移しています。 （2016年 群馬県公立入試 類似）
- 札幌市の人口は1960年から2010年にかけて、北海道全体の人口増加分を補えないほど減少した。
 - 北海道全体の人口増加に比例して、道内すべての市町村の人口が均等に3倍以上になった。
 - 道内人口に占める札幌市の割合は、1960年から2010年にかけて一貫して減少傾向にある。
 - 北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。
- 問6 北海道の石狩平野で見られる「泥炭地」の土地改良について、その目的と仕組みを説明したものととして最も適切なものはどれですか。 （2022年 三重県公立入試 類似）
- 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。
 - 砂丘が広がる乾燥した土地に、スプリングローなどの灌漑設備を整え、らっきょうやスイカなどの栽培を可能にするため。
 - 山がちな地形で平地が少ないため、斜面を階段状に切り開いて石垣で固定し、日当たりの良さを活かしてみかんを栽培するため。
 - 火山灰が降り積もった水持ちの悪い土地に、粘土質の土を混ぜ合わせることで、水田に必要な水を蓄えられるようにするため。
- 問7 北海道の知床（斜里町など）では、1980年の知床横断道路の開通などをきっかけに、1990年代には観光客数が180万人に達するほど急増しました。これにともなう環境の変化と、その対策として行われた取り組みの説明として最も適切なものはどれですか。 （2022年 栃木県公立入試 類似）
- 1990年代の急激な観光客増加に対応するため、自然保護よりも利便性を優先し、知床半島の奥地まで自由に自動車で移動できる制度を強化した。
 - 観光客の増加によって自然環境が損なわれることが懸念されたため、1999年から自動車の乗り入れ規制を開始し、保全と観光の両立を目指すエコツーリズムのガイドラインを策定した。
 - 世界自然遺産への登録を維持するために、2007年以降は一切の観光利用を禁止し、研究者以外の立ち入りを厳格に制限する方針に転換した。
 - 観光客が減少したことで地域経済が衰退したため、2005年に世界自然遺産に登録されたことを機に、新たな大型道路を建設して観光客の呼び戻しを図った。
- 問8 札幌市の気候の特色を、本州の都市と比較して説明したものととして、最も適切な内容を選んでください。 （2023年 福井県公立入試 類似）
- 1月の平均気温が氷点下となる一方で、梅雨前線の停滞により初夏の降水量が本州の都市よりも多くなる。
 - 緯度が高いため1月の平均気温が氷点下となり、梅雨や台風の影響が少ないため夏季の降水量が本州に比べて抑えられている。
 - 日本海流の影響を強く受けるため、1月の平均気温は氷点下にはならず、年間を通じて降水量が平均化されている。
 - 季節風の影響で冬の降水量は本州の日本海側より多いが、夏季は太平洋高気圧の影響で非常に高温多湿となる。
- 問9 北海道の地理的特徴や自然環境について述べた次の文のうち、知床半島に関連する記述として正しいものはどれか。 （2017年 愛知県公立入試 類似）
- 親潮（寒流）の影響を強く受けるため、夏季には季節風が温められて上昇し、年間を通して降水量が非常に多い地域である。
 - 亜熱帯の気候に属し、独自の進化を遂げた固有種が多く生息することから、小笠原諸島とともに世界自然遺産に選ばれている。
 - 流氷が接岸する北限の地として知られ、広大な泥炭地が広がることから、全域が世界文化遺産に登録されている。
 - 世界自然遺産に登録されており、海と陸の生態系のつながりが保たれているほか、周辺にはラムサール条約登録湿原もみられる。
- 問10 北海道の農業経営に関する二〇〇五年から二〇二〇年の推移について、統計的な事実として正しい説明はどれですか。なお、この期間において農業経営体の総数は減少しており、経営耕地面積の合計は約百七万ヘクタールから約百三万ヘクタールへと微減しています。 （2024年 大阪府公立入試 類似）
- 農業経営体の総数は減少したが、団体経営の数は増加し、経営の集約化が進んだ
 - 経営耕地面積が微減した主な原因は、団体経営の数が大幅に減少したことにある
 - 団体経営の割合が低下したため、一経営体あたりの経営耕地面積は縮小した
 - 農業経営体と団体経営の数がともに増加したため、耕地の奪い合いが起きた
- 問11 夏の北海道東部の太平洋沿岸では、濃霧（海霧）が発生しやすいため、8月の日照時間が約127時間にとどまる釧路のように、札幌（約171時間）と比較して日差しが遮られる傾向があります。この濃霧を発生させる要因となる、北海道の東側を南下する寒流の名称を次の中から選びなさい。 （2021年 茨城県公立入試 類似）
- リマン海流
 - 千島海流（親潮）
 - 日本海流（黒潮）
 - 対馬海流

答え合わせ・解説

問1	答え 2 シベリア沿岸で生まれた氷が南下してくるもので、冬の重要な観光資源として活用されている。	流氷はシベリア沿岸で発生し、海流に乗ってオホーツク海を南下して北海道の北東岸に到達します。かつては漁船の出港を妨げるなどの負の側面が強調されましたが、現在では砕氷船（ガリンコ号やオーロラ号）による観光や、流氷とともにやってくるクリオネなどの観察といった観光資源としての側面が重視されています。他の選択肢にある冷害の原因は主に夏の「やませ」などであり、流氷の性質とは異なります。
問2	答え 4 旭川市に比べて夏の気温が明らかに低く、沿岸部から広がる濃霧の影響を受けやすいため、多くの土地が牧草地として利用されている。	内陸の盆地にあり夏に気温が上がりやすい旭川市に対し、根釧台地に位置する別海町などは海霧の影響を強く受け、夏でも低温であることが統計資料などからも読み取れます。この冷涼な気候を背景に、土地利用においても耕地や果樹園ではなく、牧草地が圧倒的な面積を占めているのが根釧台地の大きな特色です。
問3	答え 4 大型の機械を活用した大規模経営	北海道は平坦で広大な土地に恵まれているため、他地域のような小規模な農地を細かく管理するスタイルではなく、広大な農地を少人数で管理する「大規模経営」が行われています。この形態を維持するために、大型の機械が不可欠な道具となっており、これが北海道の景観や農業の強みとなっています。
問4	答え 3 大型の機械を導入し、少ない人数でも広範囲の作業を短時間でこなす手法	北海道は明治時代以降の開拓の歴史的背景から、一戸あたりの耕地面積が他都府県に比べて非常に広いという特徴があります。これほど広大な面積を家族などの少人数で管理するためには、トラクターやコンバインといった大型の機械による作業の効率化が不可欠です。これを大規模・機械化農業と呼び、労働力不足を補いながら高い生産性を実現しています。
問5	答え 4 北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。	数値データを確認すると、北海道全体では約1.3倍の緩やかな増加であるのに対し、札幌市は50年間で3倍以上に達しています。札幌市という一つの都市が、道全体の人口成長を牽引すると同時に、道内の他の地域から人口を吸収する形で拡大を続けてきたことが読み取れます。これが道内における人口集中の実態です。
問6	答え 1 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。	泥炭地は寒冷な気候の影響で植物が腐りきらずに堆積した土地で、スポンジのように水分を大量に含んでいます。このため、農業を行うには「客土」によって土壌を入れ替え、さらに排水路を整備して余分な水分を取り除く必要がありました。他の選択肢にある「火山灰地」は関東地方や九州地方、「砂丘」は鳥取県などの山陰地方、「段々畑でのみかん栽培」は愛媛県や和歌山県などの気候と地形を活かした取り組みです。
問7	答え 2 観光客の増加によって自然環境が損なわれることが懸念されたため、1999年から自動車の乗り入れ規制を開始し、保全と観光の両立を目指すエコツーリズムのガイドラインを策定した。	知床では、道路の開通によってアクセスが向上したことで観光客が急増し、貴重な生態系や景観が損なわれることが課題となりました。これを受け、2005年の世界自然遺産登録の前後から、特定の時期のマイカー規制やエコツーリズムの推進など、自然を「守る」とことと「利用する」ことを両立させる持続可能な取り組みが続けられています。
問8	答え 2 緯度が高いため1月の平均気温が氷点下となり、梅雨や台風の影響が少ないため夏季の降水量が本州に比べて抑えられている。	札幌市が位置する北海道は、日本の最北部に位置するため1月の平均気温が氷点下になるという厳しい寒さが特徴です。また、本州以南とは異なり、梅雨の影響をほとんど受けず、台風の通過も相対的に少ないため、夏季の降水量が本州の主要都市に比べて少なくなるという背景があります。
問9	答え 4 世界自然遺産に登録されており、海と陸の生態系のつながりが保たれているほか、周辺にはラムサール条約登録湿原もみられる。	知床は、流氷が運ぶ栄養分による海洋生態系と、それを糧にするヒグマやシマフクロウなどの陸上生態系が密接に関わっている点が評価され、世界自然遺産となりました。選択肢にある「季節風が温められて」という記述は、親潮が寒流であることを考えると誤りです。また、小笠原諸島は「東洋のガラパゴス」と称されますが、知床とは気候帯も登録理由も異なります。
問10	答え 1 農業経営体の総数は減少したが、団体経営の数は増加し、経営の集約化が進んだ	二〇〇五年から二〇二〇年にかけて、農業経営体数は五百四十七から三百四十九へと減少していますが、団体経営は三十五から四十三へと増加し、その割合は約十二パーセントに達しています。全体の耕地面積に大きな変化がない中で経営体数が減っている事实は、一経営体あたりの規模が拡大し、農業経営が特定の経営体に集約・大規模化されていることを裏付けています。
問11	答え 2 千島海流（親潮）	北海道の東側の太平洋岸には、北の千島列島方面から冷たい海水が流れてくる寒流の千島海流（親潮）が通っています。夏の湿った空気がこの冷たい海面によって冷やされることで水蒸気が凝結し、大規模な濃霧が発生します。これにより、釧路などの地域では夏の日照時間が短くなります。